

大学ブランドの効果的情報発信
—日本の大学の中国における広報事例—

北京研究連絡センター

内藤 佳奈

1. はじめに

本報告書は、優秀な留学生や研究者に選ばれる大学になるために、いかにして大学を PR していくか、広報活動を展開していくかを考察するものである。

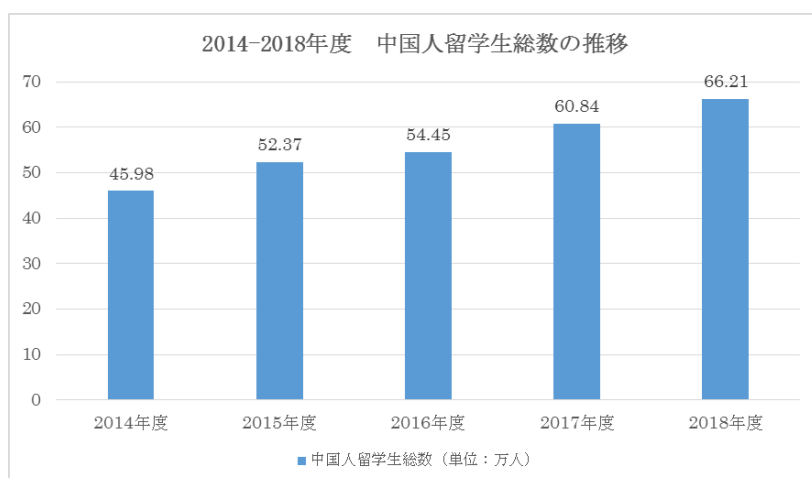
本テーマを選択したのは、筆者は自身の所属先である熊本大学に関して、教育面、研究面そして生活環境面等において非常に魅力的な大学だと感じているが、海外出張や海外旅行の際に、「熊本大学」「熊本」の名前を口にしても「熊本ってどこ？」という反応が返ってくるのが度々あったためである。（「熊本」という地名を差し置いて、「くまモン」は知っているという方に複数出会ったためである。）こうした経験から、まずは大学名を知ってもらわないことには留学先に選ばれないという危機感を抱いたことが理由としてあげられる。

本報告書の構成は、中国における留学の現状、日本の大学が中国において展開する広報活動の取組みについての調査結果（アンケート及びインタビュー）を紹介し、最後にまとめを行う。

2. 中国における留学の現状

2-1. 留学生増加の背景

中国は現在、「世界最大の留学生送り出し国、アジア最大の留学生受け入れ国」¹である。中国留学生全般として海外志向が高まり、毎年中国人留学生数は増加傾向で、今後も増え続けると予測されている。



※中国教育部「我国出国留学人员情况统计」の数値より筆者作成（国費留学生、機関派遣留学生及び私費留学生の総数）

¹ 南部広孝「中国における留学生政策の変遷と近年の動向」令和元年8月 IDE 現代の高等教育 No. 613 教育の国際交流

増加の背景として、①中国における大学進学率が上昇している（＝大卒の学歴が一般的になっている）、②学生の親世代からも理解が得られている（留学費用は家族や親族からの支援が多い）及び③中国の全国統一大学入試（高考）の受験競争が激化している、以上の3点があげられ留学が1つの重要な選択肢となっている。すなわち、中国人留学生を呼び込むには、日本側にとっても好条件が比較的そろっている状況といえる。なお、中国人学生が留学先を決定する際の情報の入手先は、1位：仲介業者、2位：国外大学ウェブサイト、3位：友人や先生からの紹介である²。

2-2. 日本への留学の現状と傾向

中国人留学生にとって、アジア諸国の中では日本が主要な留学先の1つとなっている。傾向としては、学部生は私立大学を選択（81.1%）、修士及び博士課程の学生は国立大学を選択している。また、半数以上が関東地区に集中（55.6%）し、次に多いのが近畿地区（16.9%）、その次に九州地区（11%）である（2016年統計）³。日本を留学先として選定する主な理由は、「教育の質の高さ（特に学部教育）」、「日本文化（ポップカルチャー及び日中の古くからの文化交流）」、「学費の安さ（日本の大学や政府が提供する奨学金により中国の一般家庭が留学先として選択しやすい）」及び「物理的距離」があげられる。

2-3. 主要な留学先

中国人学生の留学先の第1候補は米国である。米国国際教育研究所（IIE）の調査”OPEN DOORS 2019”のデータによると、Academic Year 2018-2019に米国で学ぶ中国人学生は約36万9500人と、米国における留学生数の第1位である⁴（同時期に米国で学ぶ日本人学生は約1万8100人）。

同様に留学先として人気の国の1つである英国では、2019年3月24日現在、英国の世界一流の名門大学であるケンブリッジ大学のほか、6つの大学（バーミンガム大学、レスター大学、ケント大学、ダンディー大学、クイーンズ大学ベルファスト校及びカーディフ大学）が中国の高考の成績を入学要件として認めると発表している⁵。

各国による優秀な留学生の獲得競争がますます熾烈化している中で、日本の大学はどのような取り組みを行なっていくべきか次章以降考察したい。

² 中国留学发展报告(2017) No.6

³ 中国留学发展报告(2017) No.6

⁴ 米国国際教育研究所（IIE）OPEN DOORS 2019 地域別データ

<https://www.iie.org/Research-and-Insights/Open-Doors/Data/International-Students/Places-of-Origin>

⁵ 好消息！剑桥大学承认中国高考成绩 要求全省排前0.1% 平成31年3月24日：中国新闻网

<http://edu.people.com.cn/n1/2019/0325/c1006-30992410.html>

3. アンケート -日本の大学が中国において展開する広報活動の取組-

3-1. 実施目的

2008年にはじまった「留学生 30 万人計画」に関して、独立行政法人日本学生支援機構（以下 JASSO と記載）の調査によると、数値目標をほぼ達成した状況である（平成 30 年 5 月 1 日現在の在籍状況は 298,980 人）。次なる目標の 1 つとして、量から質へと転換していく時期であるといえるが、ここでは優れた中国人留学生を効果的に呼び込むために、希平会⁶の各参加機関が現在どういった広報活動を展開しているか把握し、今後より効果的に取り組んでいくための考察をすることを目的とし、アンケートを実施した。

3-2. 実施概要

- ・タイトル：大学・機関等における「広報活動」に関するアンケート（A4・片面 2 枚分）
- ・対象：希平会参加機関
- ・有効回答数：27 機関
- ・設問数：全 7 問
- ・構成：前半 中国における広報活動全般、後半 ウェブサイトについて
- ・備考：筆者が作成し、今年度初めて実施したもの

3-3. 設問設定

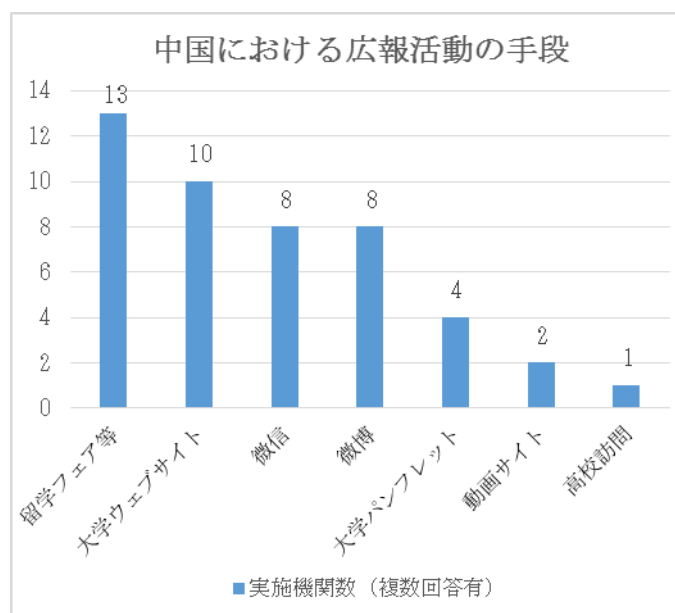
本アンケートの設問を作成するにあたり、平成 26 年度文部科学省先導的の大学改革推進委託事業「日本人の海外留学及び海外からの留学生受入れ支援の具体的施策等の検討に係る調査研究成果報告書（フォースバレー・コンシェルジュ株式会社）」を参照した。当該調査研究の外国人学生を対象にしたアンケートの中で、「留学情報の収集方法」として、「留学情報が掲載されている Web ページ」や「留学先の学校の公式 Web ページ」といった Web での情報を参考にしているとの回答が多くあげられている。Web 以外の情報源としては「留学経験者」をあげた回答も多く、実際に留学したあるいは留学中の学生の声や体験談が学生の留学に関する意思決定に大きく影響するものと考えられる、と述べられている。また、海外高等教育機関を対象にしたアンケートの中で、「日本留学の情報周知手段」として、日本の大学などへの派遣人数が比較的多い機関においては、「学校のウェブサイト」を用いて行っている旨の回答が 100%であった。

⁶ 希平会（日中高等教育交流連絡会）：中国に事務所、拠点、同窓会組織等を持つ日本の大学、研究所、政府系機関等を中心に組織された団体。現在は中国での活動を展開する大学・機関等であればオブザーバーとして参画可。

次項 3-4. では、得られた回答のうち、特に積極的な事例を抜粋して紹介する。

3-4. アンケート実施結果

設問 1) どのような手段で行っていますか（今後取組予定の手段も含む）。 複数回答可



○留学説明会及び留学フェア等イベント関連（13 機関実施）

- ・事務所を設置している北京での開催の場合は会場参加、その他協定校のある都市での開催の場合は資料参加
- ・中国の大学が独自に行う留学フェアへの参加、中国の大学からの依頼で学生向けに説明

○大学ウェブサイト（10 機関実施）

- ・中国語ページの開設

○微信 WeChat⁷（8 機関実施）

- ・発信方法例：元留学生/卒業生/入学予定者グループでの情報発信
- ・発信内容例：大学紹介から入試情報まで豊富な情報を掲載

○微博 Weibo⁸（8 機関実施）

- ・毎回記事上にオフィスウェブサイトのリンクを貼り付けて誘導

⁷ 中国で一般的に使用されている、チャットや通話ができるメッセージングアプリ（日本で一般的に使用されている『LINE』に相当するアプリ）

⁸ 中国で一般的に使用されている、ミニブログサイト（日本で一般的に使用されている『Twitter』に相当するツール）

○大学パンフレット（4 機関実施）

- ・協定校へ定期的に大学紹介パンフレットを送り配布依頼
- ・各地の教育機関（高校、大学）及び留学仲介業者へダイレクトに留学案内を送付
- ・留学案内冊子の中国語版を作成中

○動画サイト（2 機関実施）

- ・大学紹介ムービーをアップロード
- ・英語コースの入試関連情報を中心にアップロード

○高校訪問（1 機関実施）

- ・現地高校を教員や在学生在が訪問し入試制度や学部課程（英語コース）の紹介

設問 2) どのようなことを意識していますか。

意識していること	具体的な紹介内容（一例）	実施機関数
大学のプログラムを理解してもらいたい	交換留学プログラム、短期プログラム及び英語で提供しているプログラム	5
大学の国際性を PR したい	スーパーグローバル大学創生支援事業や大学の国際交流に関する最新のニュースや留学情報	5
留学生生活を具体的にイメージしてもらいたい	研究環境、立地、宿舎及び大学独自の奨学金	6

奨学金や宿舎に関する内容は、留学生がほぼ必ず調べる情報である。JASSO の「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果」によると、学校や法人等が設置する留学生宿舎及び学校が設置する一般学生寮に入居している学生は全体の 23.1%と少数派で、その他の学生は民間の宿舎やアパートにて生活しているため、宿舎紹介は PR 効果の大きい情報といえる。

設問 3)-1 帰国した留学生 (OB・OG、同窓会) に協力を得ることがありますか。

協力を得た実績のある機関は 23 機関、ない機関は 4 機関であった。

協力を得た実績（一例）	実施機関数
留学フェア等イベント時における通訳、質問対応及び留学体験談の紹介	13
中国の大学との交流協定締結時における支援	2
インターンシップやホームステイ等の受入実績	2

設問 3)-2 協定校と連携して、活動を展開することはありますか。

連携した実績のある機関は 21 機関、ない機関は 6 機関であった。

連携した事例として、協定校との合同国際シンポジウム、学術フォーラム、学生交流会、学生来訪団の受入、語学研修、スポーツ交流及びスピーチコンテスト等のイベントを開催したといった回答が多く寄せられた。

設問 4) 特定の学年に向けて情報発信を行うことがありますか。

学年を特定することがある機関は 3 機関、ない機関は 24 機関であった。

特定の学年に向けて情報発信することは少ないことがうかがえた。

設問 5)-1 貴学ウェブサイトを通じて情報発信する際に、工夫していることは何ですか。

- ・ ウェブサイトに微博へのリンクバナーを設け、中国人受験生からの微博への問合せや相談に速やかに対応、資料請求には中国上海事務所のスタッフが現地対応
- ・ 留学生向けの就職支援サイトの設置
- ・ 留学生の卒業後の就職先を掲載し、日本での就職率が高いことを積極的に PR
- ・ 中国人学生が関心を寄せそうな中国関連の記事（中国からの訪問団来訪や中国の研究活動等）を必ず掲載

設問 5)-2 貴学ウェブサイトに留学生体験談を掲載していますか。

掲載している機関は 15 機関、していない機関は 12 機関であった。

体験談の掲載方法は、HP にメッセージを掲載する形式とビデオメッセージ形式が見受けられた。また、キャンパスライフがイメージしやすいように 1 日のスケジュールを掲載したり、言語を日本語+留学生の出身の母国語で公開したり、といった工夫がなされていた。また、体験談を含む複数のビデオメッセージをアップロードしている大学もあった。

4. インタビュー -12月24日・岡山大学長春事務所-

4-1. 事務所概要

- ・ 設置年月 2007年8月
- ・ 設置場所 東北師範大学構内（中国吉林省長春市）

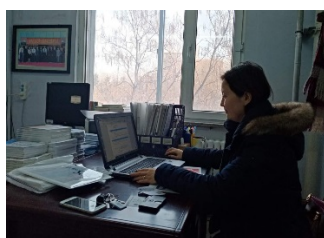
- ・備考 国立六大学共同利用事務所（国立六大学⁹初の海外拠点）

4-2. インタビュー結果 -3つの「連携」の事例紹介-

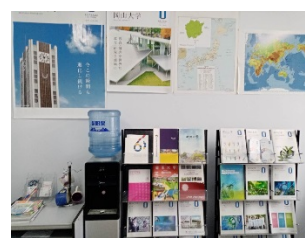
岡山大学長春事務所（先方担当者:宋賀群氏）では、岡山大学に関するニュースを中国語に翻訳し、微信や微博で情報発信、中国東北部における日本語スピーチコンテストの開催、学生や保護者からの多種多様な問合せ対応といった幅広い業務を遂行している。



当該事務所のある建物



問合せ対応中の宋賀群氏



国立六大学資料設置の様子

I 岡山大学本部及び岡山大学のその他中国事務所との連携

岡山大学は長春のほか、瀋陽及び上海に事務所を設置している（内、瀋陽事務所にはスタッフの配置は特にないが、必要に応じて事務所所在地である中国医科大学側のサポート有）。岡山大学本部（国際企画課）・上海事務所・長春事務所は週に1、2回程度テレビ会議を行っている。また、長春事務所は、メールにて毎日本部と密に連絡を取り合っている。上海事務所側はイベント出張等も比較的多く、上海や上海近郊への、岡山大学からの出張者対応も行っている。なお、2019年5月には、「日中大学フェア&フォーラム in China 2019」¹⁰に両事務所から参加した。

II 中国東北部大学との連携 -日本語スピーチコンテスト及びO-NECUSの事例紹介-

- ・日本語スピーチコンテスト

2019年の部は、10月に大連理工大学にて開催された（開催大学は東北三省の大学で毎年変わる）。会場準備・設営及びボランティア募集といった現地調整も行う。2019年の部の実績は、合計13大学・29名の学生から応募があり、内10名が1次作文審査を通過し、最終的に2名が最優秀賞を獲得した。テーマは、「中国に伝えたい日本文化」または「日本語の勉強を通して学んだこと」のどちらかを選択することになっており、最優秀賞獲得者には、賞状のほか、1週間程度の岡山大学での研修旅行（岡山大学及び近隣地区における研修や交流）の機会が与えられる。本研修旅行をとおして、留学先に岡山大学を選択する学生もおり、本コンテストは大学にとって宣伝効果が高いだけでなく、双方にメリットをもたらしている。

- ・岡山大学中国東北部大学院留学生交流プログラム O-NECUS

岡山大学と O-NECUS コンソーシアム参加大学（大連医科大学、中国医科大学、吉林大学、東

⁹ 岡山大学（長春事務所主管大学）、千葉大学、新潟大学、金沢大学、長崎大学及び熊本大学

¹⁰ 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が、中国科学技術部（国家外国専門家局）との共催で、『日中の大学に対して「大学交流」「留学促進」「産学連携」の場を提供し、相互理解を促進するための基盤作りに貢献する』ことを趣旨として開催したイベント。

北大学、東北師範大学、ハルビン医科大学及び長春理工大学)は、「双方向学位(ダブルディグリー)制度」及び「短期留学(単位互換)制度」といった、世界に通用する優れた人材を共同で行うプログラムを実施している。

Ⅲ 国立六大学との連携

事務所内に国立六大学のパンフレットを設置、国立六大学に関する問い合わせがあった場合には当該大学国際部署に情報を伝達したり、Ⅱの日本語スピーチコンテストにおいては、各大学からの国際担当の副学長や教授等が審査に従事したりする、といった連携がなされている。

その他、全世界の学部生を対象に「グローバル・ディスカバリー・プログラム」¹¹についても情報発信し、学生交流を促進している。本インタビューから、岡山大学内・東北部の大学間・国立六大学といった多方面での連携を強化することで、岡山大学のブランド力を高めていることが把握できた。

5. まとめ

今回のアンケート及びインタビューをとおして、各大学が積極的に広報活動を展開している現状が把握できた。優秀な人材を呼び込むためには、受け入れる国や大学が魅力的で国際競争力が高いことが前提となるが、現状と前提を踏まえた上で、第1章にて取り上げた「どういった手段で大学ブランドの情報発信をより効果的に実施していくか」という課題について以下のとおり纏める。

第3章で述べたとおり、引き続き大学ウェブサイトを最大限に活用した広報戦略を考察していくこと及び学生が得たい情報を外国語サイトにおいても確実に発信していくことが重要である。コンテンツとして、「留学生体験談」及び「卒業後のキャリア状況(日本留学を経て活躍する人材に関する情報等)」も掲載すると効果的である。

「卒業後のキャリア」については、欧米やオーストラリア等の留学先や移住先として人気のある国と比較すると、日本は留学ビザから就労ビザへの切り替えが容易なほうである。留学経験を活かしたキャリア形成が可能であるといった日本留学の誘因を存分に生かしたい。また、2-3. 主要な留学先で取り上げた米国が、米中の貿易摩擦を背景に一部の中国人留学生に対するビザ制限等の措置を行ったことに伴い、中国人学生の留学先決定に少なからず影響を及ぼしている。こうした各国の留学政策や動向にも常に目を向け、柔軟な対応を行っていく必要がある。

最後に、予算が限られていることを考慮し、各大学だけの広報活動にとどまらず、留学生、卒業生、協定校及びコンソーシアム等の多方面との結びつきを強化していくことが重要である。

¹¹ 世界中から集まる留学生、帰国生などと一緒に学ぶ国際プログラム。学部・学科の枠にとらわれない、自由で実践的な学びを通してグローバルに活躍できる人材を育成。

謝辞

本報告書の作成にあたり、アンケートにご協力いただいた希平会員の皆様、インタビューにご協力いただいた岡山大学長春事務所の宋様に改めて御礼申し上げます。

2年間の研修に参加する機会を与えてくださった熊本大学の皆様、国内研修中にご指導くださった JSPS 東京本部の皆様、JSPS 北京センターにていつもあたたかく的確な指示をくださった廣田センター長及び菅澤副センター長、雑談から業務相談まで一緒に楽しく過ごした築国際協力員、心から尊敬する現地職員の江岸さん及び余彬さん（業務面及び生活面等幅広く助けていただいた上、生活を豊かにするヒントも多く得られ、お二人にお会いできただけでも北京に来た価値があったと感じております）、そして研修期間中にご指導・ご支援いただいた日中の大学・学術研究機関関係者の皆様に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

なお、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を受け、日本人駐在員の一時帰国や複数の大学による中国における研修プログラムの中止等多方面に影響が及んでおり、筆者も2月に急遽一時帰国となりました。連日の報道を目にしては、無事に落ち着くことを心から願うばかりです。本案件に関して、周囲の皆様が諸々配慮してくださったことに、重ねて感謝の意をここに申し上げます。

北京にて最後まで業務できなかったことが心残りですが、私にとって北京センターの皆様と一緒に過ごしたランチタイム等なにげない日常の1つ1つが大切な宝物です。宝物を胸に、本研修をとおして得た知識や経験を今後しっかり活かしていきたいと考えております。

参考文献

※ウェブページはすべて2020年2月13日最終アクセス

(1) 中国留学发展报告 BLUE BOOK OF GLOBAL TALENT ANNUAL REPORT ON THE DEVELOPMENT OF CHINESE STUDENTS STUDYING ABROAD (2017) No.6

(2) 中華人民共和国教育部ホームページ

URL <http://www.moe.gov.cn/>

(3) 「留学生30万人計画」の骨子とりまとめの考え方に基づく具体的方策の検討（とりまとめ）

平成20年7月8日 中央教育審議会大学分科会留学生特別委員会：文部科学省ホームページ

URL https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1249702.htm

(4) 世界の成長を取り込むための外国人留学生の受入れ戦略（報告書）

平成25年12月18日 戦略的な留学生交流の推進に関する検討会：文部科学省ホームページ

URL https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1342726.htm

(5) 先導的の大学改革推進委託事業 日本人の海外留学及び海外からの留学生受入れ支援の具体的施策等の検討に係る調査研究成果報告書（平成26年度文部科学省委託事業）

平成27年3月 フォーブスバレー・コンシェルジュ株式会社：文部科学省ホームページ

URL https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1357553.htm

(6) 平成30年度外国人留学生在籍状況調査

平成31年1月：日本学生支援機構（JASSO）ホームページ

URL https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2018/index.html

(7) 南部広孝「中国における留学生政策の変遷と近年の動向」

令和元年8月 IDE 現代の高等教育 No. 613 教育の国際交流

(8) 小松由美「留学生は大学ホームページをどう見ていたか？-国費学部留学生の調査から探る戦略的情報発信-」

平成27年6月 ウェブマガジン『留学交流』：日本学生支援機構（JASSO）ホームページ

URL <https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2017/06.html>

(9) 中国高等教育質保証インフォメーション・パッケージ

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(10) 中国人留学生の帰国ブーム【アジア生活者のリアル Vol. 10 : 中国編】

平成 30 年 6 月 28 日 : 博報堂ウェブマガジン

URL <https://www.hakuhodo.co.jp/magazine/47817/>

(11) 好消息！剑桥大学承认中国高考成绩 要求全省排前 0.1%

平成 31 年 3 月 24 日 : 中国新闻网

URL <http://edu.people.com.cn/n1/2019/0325/c1006-30992410.html>